

ポラス学生・建築コンペ

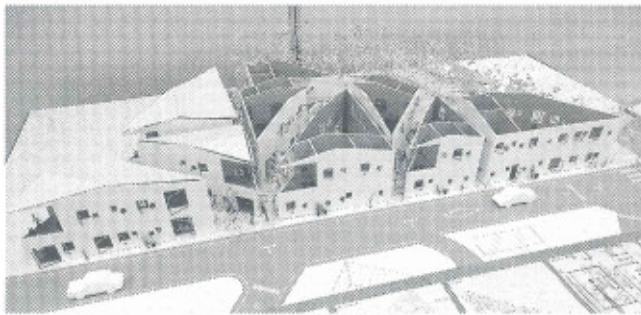
ポラスグループのポラス（埼玉
県越谷市）は23日、第3回学生・
建築デザインコンペティションの
公開審査会を開いた。応募作品5
25点の中から1次審査を通過し
た5点を審査し、道ノ本健大・富
安達郎さん（法政大大学院）の
「27のエントランスを持つ街」を
最優秀賞に決めた。3つの住戸パ
ターンを設け、規格化したことな



受賞者と審査員

最優秀に道ノ本・富安（法政大院）さん

3つの住戸パターン規格化を高く評価



最優秀模型作品

どを評価した。
審査委員長の青木淳氏（青木淳
建築計画事務所）は、「設計して
いく中で、課題となるものを繰り
返し、こつこつ見つけていく。そ
こで結果的にももしろいものがで
きる」と先輩建築家の経験を伝え
た。続けて「模型を作って大変な
思いをしたわけだが、図面では分
からなかったこと、本人たちが悩
んだことなどが見えてきた。設計

は思いっただけではできないと思
う」と苦労をねぎらった。

同社は、コンペ内の一作品から
実際の物件へと発展させる「実物
件化プロジェクト」を紹介した。
今回の応募作品でも対象となるも
のがあれば実物件化する方針だ。
2017年度も同コンペを開催す
る予定。さらなる学生らの柔軟な
アイデアに期待を寄せている。

今回のテーマは「同じ家が集ま
ってできる、豊かな街」。三角形
の敷地に規模が6〜10棟程度の木
造、近隣に小川が流れていること
など比較的難しい条件の作品を求
めた。青木氏のほか、今井公太郎
（東京大生産技術研究所教授）、
乾久美子（乾久美子建築設計事務
所）、前田圭介（UID）、野村
壮一郎（ポラスグループ）の各氏
が審査した。

コンペはポラスグループの創業
45周年記念事業の1つで、建築業
界発展に向けた貢献を目的に14年
から開催している。第1回コンペ
の作品は分譲住宅のミライズ三郷
中央「繋ぐ街」として反映し、す
でに物件化している。